乙島東社協だより

乙島東小学校区

社会福祉協議会設立に当たって

会長　小野　貢

平成二十九年一月に、乙島東小学校区社会福祉協議会を設立することができました。

この設立は、それぞれの町内会や民生・愛育・栄養・老人・環境などの各種団体の役員さんたちの大変な御苦労と御協力の賜物です。すでに、私たちの学区では、この役員さんたちが福祉活動に積極的にかかわってくれたり、また早い時期から、「小地域ケア会議」を結成し熱心に活動がされていたからこそ、設立にこぎつけることが出来ました。

今日も、こんな会話をしている高齢者に逢いました。

「あんた、今日のスコアは良かったなあ。」

「いやいや、あんたの方がよかったんじゃろう。」

「ちょっとー、いつも来とった、あのおばあさんは、今日は来てなかったが、どうしたんじゃろうかなあ。」

グランドゴルフの道具を肩にして家路につく四、五人の高齢者たちである。この会話こそ福祉の原点に立ったものではないでしょうか。

また、各地域での子供の数は偏ってはいるが、かつてのにぎやかな子供たちの声は、ずいぶんと減った。

私たちの学区も農地から住宅地に転用されて、この地を、自分の故郷にしてしまった人も多い。住めば都。もうこの地は、本当の故郷となり、若い者にも高齢者にとっても素敵な故郷で、人生の思い出をいっぱいつくっていける町になってきているように思える。これからも、ずっと安心、安全な町であり続けてほしいです。

ところで、今、経験したことのない少子高齢化社会に、私たちの地区も、ゆっくりと突入しています。しかし、他の地区よりやや遅れはしているが、やがて高齢化が進むことは、間違いありません。

だからこそ、高齢者が増えることを恐れず、この高齢化社会に関わる問題のすべてに立ち向かわなくてはなりません。受け身の状態で誰かが、何かをしてくれるのを、もうじっと待っているわけにはいきません。

今こそ、ここで私たちは何を始めたらよいのか、何ができるのかを、考えてみることが急務ではないでしょうか。そして、よいと思うことは、できることから行動に移す時です。

そこで、これからも「助け合い」とか「支え合い」という福祉の視点に立った事業を推進し、みんなが自分の故郷が、この乙島東小学校区でよかったと言える町づくりを、皆様と一緒に進めてまいりたいと思いますので御協力をよろしくお願いいたします。

ご多忙の中、設立総会にご臨席を賜り御祝辞をいただきました方々を順不同で紹介いたします。

倉敷市長　伊東　香織様

岡山県議会議員　中塚　周一様

倉敷市議会議員　平井　弘明様

倉敷市議会議員　森分　敏明様

倉敷市社会福祉協議会会長　虫明　正雄様

倉敷市玉島地域わかち合いの会会長　西森　數稔様

倉敷市社会福祉協議会玉島事務所所長　田口　哲男様

主任　神野　馨様

主事　小野　睦子様

まことにありがとうございました。今後とも当協議会に御支援を賜りますようお願いいたします。

福祉講演会

乙島東小学校区社会福祉協議会の設立にあわせて、玉島東公民館館長原田富子先生の「出会いから」という演題で記念講演があった。

先生は、市内の小学校長をご退職後、公民館長としてご活躍中で、その豊富な体験や知識に、音楽やスライドなども駆使されたプレゼンで、聴衆者を引き込み、一時間は束の間であった。

その時の講演の一部を、先生のお許しをいただいて掲載した。

演題　「出会いから」

講師　玉島東公民館　館長　原田　富子先生

小学校の教員として初めて赴任した時、「電信柱を地域の人だと思いなさい。頭を下げるだけでなく、あいさつができたら、もっといい。そのうち、話ができるようになる。」と校長から教えられたそうだ。これこそ、「出会いづくり」の基本の動作である。日常のちょっとした声掛けの大切さを確認させられた。

人をつなぐのは、自然に出てくる挨拶やちょっとしたおしゃべりです。登下校時の子どもたちへの声掛けも、また隣近所の人へのあいさつにしても、特に子どもたちには、名前や愛称で顔を見ての声掛けは、一層親しみやすさや安心感が増すことにも気づかされた。

子どもは世の中の宝物です。地域を担う大人になっていきます。だからこそ、地域のみんなで子どもたちが育つお手伝いが出来たらこんなにうれしいことはないでしょう。

高齢者だから、高齢者しか、してあげられないこともたくさんある。昔遊びで交わっても、命の尊さや趣味の話になってもよいのである。

また学校と地域の人との心豊かな触れ合いを通しての学習は、子どもたちに知識だけでなく、それ以上のものを残し、確実に子どもたちを成長させる手助けをしているそうである。

さて、高齢者の生活スタイルにもいろいろある。「来ていただく」か「出ていく」かと、相反するような生活スタイルがある。どちらにせよ、人とのつながりを大切にし、楽しみにするということです。

「人とのつながり」は、生きていくうえで、本当に大切なものです。しかし、人がどのように生きているのか、暮らしているのか、なかなかわかりません。まして心の中となるとなおさらです。だから、どんな些細なことでもいい、お互いが情報を交換しあい、「みんなで共有する」ことができるようになりたいです。

さて、私たちは、今まで多くの出会いがあった。出会いがあったから、笑ったり、会話したり、さらに深く知り合いにもなれた。また、どこかで誰かが出会いを待っている。これからもどんな出会いがあるだろうか。

この住み慣れた町で、助け合い、支え合って楽しい日々を送りたいものです。

ふれあいクリーンアップ作戦

毎年実施されている「玉島地区年度末一斉清掃」が、三月五日（日）午前七時より行なわれました。この度は、乙島東小学校区社会福祉協議会が「ふれあいクリーンアップ作戦」として、初めて取り組みました。まず、案内のチラシを作成して、多くの親子連れでの参加を呼びかけました。日曜日の早朝でしたが、約三十組の参加がありました。

通学路や自宅周辺の道路に捨てられている空き缶や、空き瓶、ペットボトル等を拾いました。

幼稚園児が火箸を使って缶を一生懸命に挟んで拾う姿は、とても愛らしくて微笑ましい光景でした。年々ゴミの量は減ってはいますが、まだまだ心無い人のポイ捨て行為は後を絶たず、今年も空き缶が一番多く、四百九十本、続いてペットボトルが二百三十本でした。

これからも、大人だけでなく、子供たちと一緒になって住みよい環境づくりに取り組んでいきたいものです。参加してくれた二百名を超える皆さん、お疲れ様でした。

「あけぼの会」へのお誘い

この会は、高齢者でひとり暮らしの方の、孤立防止と介護予防を目的に発足しました。

性別にかかわらず六十五才以上で、自力で会場まで来られる方なら、どなたでも結構です。

現在、活動している会員は、準会員を合わせて二十三名で、年間五回、乙島憩いの家で活動しています。

民生・児童委員と関係機関や団体の協力で、毎回有意義なひとときを過ごしています。

活動の内容は、玉島東高齢者支援センター職員の方々による、脳トレやいきいき百歳体操をはじめ、折り紙、絵はがき、お手玉作りなど工夫をこらして、みんな真剣に取り組んでいます。また、お花見会、クリスマス会、新年会など季節折々の行事もあり、楽しいです。

なお活動日には、お食事代として三百円を負担しますが、それ以上においしいランチと、好評の役員さん手作りのお汁がつきます。さらに、食後には、ティータイムもセットされています。この和やかな雰囲気で和気あいあいのひとときは、何事にも変えられない時間のようです。家にこもっている高齢者の皆さん、時には家から出て、地域の多くの仲間と語らいながら楽しいひとときを過ごしてはどうですか。

参加してみようと思われる方は、お近くの民生委員にお問い合わせください。

次回は、四月六日（木）の十時半からカノ割公園でお花見をする予定です。

春を感じながらの歴史探訪

三月十九日（日）に、地域の歴史と文化の遺産を訪ねて歩いた。参加者も保育園児から八十才を超える高齢者まで八十人近い参加で、天候もウォーキングには最高のコンディションでした。

まず校庭の東南にある坂田貢翁の記念碑の前で歴史研究家の大嶋崇雄先生と郷土史家の赤沢範道先生が、坂田新開の成り立ちについて、豊富な資料を示しながらわかりやすく話をしてくれた。つづいて坂田一夫画伯のアトリエ跡地でも画伯のユーモラスな活動ぶりを聞くことができた。元気をだして、次の養父の常夜灯の説明を聞き、戸島神社まで歩いた。階段すぐ西には大きな歌碑がある。これには、徳富蘆花の歌が刻まれ、養父とのかかわりも聞くことができた。最後の見学は階段中腹にある戦時中の「トーチカ」を見学して予定の歴史探訪は終わった。

郷土には、こんな歴史や文化があることを知り、有意義であったと参加した皆さんから、感想を聞くことができた。

民生・児童委員の紹介

乙島東小学校区では、主任児童委員一名と六名の民生・児童委員が活動しています。

困りごと・悩みごとなど、お気軽に相談してください。

乙島東小学校区主任児童委員　樋口　純子

養父・樋口町・JFE鋼鈑社宅担当　香西　千鶴

小高地・新小高地・東小高地担当　森分　君枝

坂田町担当　黒岩　佳美

新高崎・高後沖住宅担当　横田智枝子

高崎上・西地区担当　中原　良和

高崎中・下地区担当　田主　律子

役員及び事務局の紹介

平成二十八年度役員および事務局関係者を紹介いたします。よろしくお願いいたします。

役員

会長　小野　貢（高崎）

副会長　樋口　隆晴（坂田町）

香西　千鶴（養父）

監事　小松原英樹（郵便局長）

香西　尚明（小学校長）

事務局

庶務　小幡　堅一（高崎）

森分　君枝（小高地）

会計　樋口　綾子（坂田町）

赤沢　鉄男（養父）

編集後記

一年のうちの、一月、二月、三月は、時の過ぎるのが速い代表のように言われている。

社協が設立されて三ヶ月、あっという間であった。

この「社協だより」も、割り付けから校正までの時間が不足気味であった。会員の皆様方に充分なことがお伝えできているか不安である。次号に期待を込めて。